

高山地区の棚田等の資源の保全・活用を考える会 第1回ワークショップ まとめ

■開催日時：2018年10月27日（土）17:00～18:30

■ご出席者一覧（順不同）

ワークショップ参加者（計18名）	
右近の郷コミュニティセンター運営委員会	向井隆氏
農のふるさと協力隊	笹尾氏
ヤンマーアグリノベーション	横田潤一郎氏
ヤンマーアグリノベーション	多田孔工氏
とよの高山ワイナリーグループ	山上忠彦氏
とよの高山ワイナリーグループ	甲斐玲子氏
とよの高山ワイナリーグループ	強田国夫氏
ふるさとおこし協議会 理事	中崎壽氏
ふるさとおこし協議会耕作会員	塩山恵子氏
ふるさとおこし協議会耕作会員	嶋津敬子氏
ふるさとおこし協議会耕作会員	藤島正治氏
株式会社東京ドーム	水本貴亮氏
農業支援塾受講生	御守享代氏
農業支援塾受講生	高野氏
合同会社エンカレッジライフ代表社員	鶴田勇氣氏
主婦	下田美緒氏
エディブルスキンケアジャパン スキンケアデザイナー	よこいあつこ氏
	わたたにやすこ氏
	福井克浩氏
オブザーバー	
高山実行組合	上西 初夫氏
高山住吉神社総代	新谷 龍一氏
豊能町秘書政策課 課長	小嶋 均氏
発起人	
高山地区の棚田等の資源の保全・活用を考える会	甲田 廣行
高山地区の棚田等の資源の保全・活用を考える会	高木 武士
高山地区の棚田等の資源の保全・活用を考える会	中根 康有
司会・ファシリテーター	
豊能町秘書政策課 主任	黒田 朋弘
大阪府立江之子島文化芸術創造センター(enoco)	濱本 庄太郎
大阪府立江之子島文化芸術創造センター(enoco)	石塚 育代
大阪府立江之子島文化芸術創造センター(enoco)	松浦 由布子

■目次

1 . 「はじめに」	1
(高山地区の棚田等の資源の保全・活用を考える会発起人：高木)	
2 . 「基礎情報のご説明」	1
(高山地区の棚田等の資源の保全・活用を考える会発起人：中根)	
3 . 「ワークショップの目的について」	1
(大阪府立江之子島文化芸術創造センター：濱本)	
4 . 「テーマ①：高山地区の魅力再発見～改めて高山地区の魅力を見つめ直そう～」	1
5 . 「テーマ②：今、棚田で活動する（活動したいと思う）上で困っていること」	3
6 . 「発表」	5
7 . 「ワークショップまとめ」	5
(大阪府立江之子島文化芸術創造センター：濱本)	
8 . 「おわりに」	6
(高山地区の棚田等の資源の保全・活用を考える会発起人：甲田)	
9 . 今後の予定	6

■参考

- ・ワークショップで出たゾーン別意見一覧

1. 「はじめに」 (高山地区の棚田等の資源の保全・活用を考える会発起人：高木)

高山地区の棚田等の資源の保全・活用を考える会の開催にご協力に感謝の意を述べさせて頂き、ご挨拶とさせて頂きました。また、この度の主催である「高山地区の棚田等の資源の保全・活用を考える会」について説明致しました。

2. 「基礎情報のご説明」 (高山地区の棚田等の資源の保全・活用を考える会発起人：中根)

高山地区の活動団体と農地の利用状況に関する説明と、人口減少、高齢化、耕作放棄地の増加、獣害など高山地区で起きている現状について説明させて頂きました。



3. 「ワークショップの目的について」 (大阪府立江之子島文化芸術創造センター：濱本)

“高山地区の棚田等の資源の保全・活用を考える会”では、「今後の高山をどのようにしていくべきか」皆さんの意見を基にビジョンとしてまとめていくため、第1回目ワークショップでは高山地区の魅力出しを行い、第2回目には今後の管理活用も踏まえた方向性を共有し、皆さんの意見を整理したビジョンをつくる事を説明致しました。

4. 「テーマ①：高山地区の魅力再発見～改めて高山地区の魅力を見つめ直そう～」

ワークショップでは3グループに分かれ、各グループごとに高山地区の魅力について意見を出し合いました。最も意見が多かったのは、空気がきれい、水がきれい、自然や生物が豊かといった高山地区の自然環境に関する意見でした。次いで、棚田や田舎の風景の景観面魅力や、農業を行う上で利点となる、標高が高く美味しい野菜ができる土地が肥えていると言った魅力が挙げられました。また、自然豊かな環境が残っている一方で、都心部から近いと感じている方が多くいる事も分かりました。その他には、高山右近の歴史や地域の人柄の温かさ、棚田はここにしかない棚田にすれば、もっと美しくなる可能性を持っていると言った様々な意見が出されました。

■皆さんから頂いた全意見をカテゴリーに分けましたので、下記に示します。

自然環境

- 植物がいっぱいありそう
- 自然がキレイ
- 自然豊かな里山
- 豊富な水量⇒川を中心に回りを整備して集客施設を立ち上げるのが良い
- 星がきれい
- 空気がきれい
- 森林に囲まれていて空気もおいしい
- 水がきれいで冷たい
- 緑が多く四季を感じられる
- 夜がよいいみで真っ暗
- 自然豊か
- 自然豊かな所がすばらしい
- 豊能町のてっぺん標高450m 天空の里

生き物

- 昆虫採集ができる
- 生き物がたくさんいる
- 昆虫が沢山いて子供達も楽しんでる
- 野生生物が多い
- 虫や自然が豊か、ホタルがいる
- 鹿の鳴き声が聞こえたり自然に近い

景観

- 景色に近代的な建物が少なく田舎的な風景になっている
- 風光明媚な里山
- 景観がいい
- 畑(農地)がきれいにつながりまとまった景観になっている
- 景観(棚田)
- 魅力ある景色
- 棚田の景観がすばらしい
- 昔ながらの日本らしさ、景色
- 田舎の原風景、観光化されない

農作業体験ができる

- 農作業体験可能
- 野菜収穫できる
- おいしく(安全な)野菜を作るお手伝いが出来る

棚田

- 棚田が美しい
- 棚田の上空写真が美しい
- 棚田が豊富に存在する
- 立派な棚田がある
- 棚田

農業への適性

- 涼しい
- 大阪府で高冷地 (450m)
- 夏期でも涼しい
- 夏すずしい (冬寒い)
- 寒暖差
- 寒暖差が大きい
- 土地が肥えている
- 水はけがいい (棚田)

静か

- 人が少ないので静か
- 外部から隔離されている静寂さ
⇒宿泊施設、キャンプ場の整備

魅力施設

- 高山に来たら遊べるグラウンドがある
- 遊具(バドミントン等)で遊べる
- 旧校舎 (グラウンド)
- 野菜の直売所がある

設備

- トイレがきれいな休憩所がある
- 休憩場所になっている
- サイクリングの人、バイクの人の往来が多いし休憩している

人

- 地元住民、人柄
- 高山以外の活動団体に好意 (協力) 的
- 人がやさしい
- 子どもをつれて遊びに来やすい、地元の方が優しい

もっとこうしたら良い

- 棚田ポイントを作りたい
- 棚田がもっと美しい場所になる可能性がある
- 高山に住む人が積極的になったらもっと良くなる

農作物が安全・おいしい

- 標高が高いため害虫が少ない
- 特産の野菜がある、高山ごぼう・マナ
- 米、野菜、作物もおいしい!
- さまざまな木、山菜、野草がある
- 害虫が少ない、農薬不要
- 野菜が作りやすい、病気が少ない、おいしい

都心からのアクセス

- 北摂から近くて自然がゆたか
- 大阪市内から1時間弱の近さで大自然
- 大阪市内から車で 1 時間以内で来る事ができる
- 都市部から来やすい
- 箕面の市街地から近い
- 都市部から近く車で移動しやすい
- 都市部に近い里山!

周辺の歴史的資源

- 勝尾寺から近い
- 勝尾寺までは人出が多い⇒この人出を高山にどのようにして引きずりこむか⇒勝尾寺側との話し合いで接点を探る
- 高山右近と歴史がある
- 神社仏閣が多く観光資源が豊富
- 右近など歴史的な価値

その他の地域特性

- 集落全体がこじんまりしている
- 他の地区から隔離されているところ
- 田畑が多い
- 農業主体
- 土地代が安い
- 急な坂道⇒自転車専用レーンを整備、散策用のトレイル整備
- 高山独特料理
- 大阪ということを忘れた
- 毎月イベントが開催されている

5. ワークショップテーマ②「今、棚田で活動する（活動したいと思う）上で困っていること」で出た意見

今、活動する上で困っていることとして意見が多かったのは、人手不足、高齢化、獣害対策といった課題に加え、棚田特有の傾斜がきつい、道が細くて機械化できない、水はけが悪い等の意見や、農作業をする際に必要なトイレ、飲食店、休憩場所等、施設面の改善の声も聞かれました。また、観光や若い人を呼ぶことを視野に入れた場合、アクセスの悪さや、高山地区の情報が散漫、PR 不足といった課題が出され、さらには、借りれる農地や空き家の情報が欲しいといった意見も見受けられました。

さらに、今後に向けて他の地域の棚田との差別化や棚田と周辺地域をどのようにしていくのか地域の方向性を決める必要性があるという意見も出されました。

■皆さんから頂いた全意見をカテゴリーに分けましたので、下記に示します。

<p style="text-align: center;">自然現象・環境要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 天候不順・台風・大雨 ● 自然災害(風・雨量の多さ) ● 寒い ● 冬これない ● 真冬の農作業はできない ● 棚田は高低差が多く危険である ● ワイナリー傾斜がキツイ ● 山が(森)棚田におしよせている ● 山道が険しい 	<p style="text-align: center;">獣害</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 猪・鹿対策が大変である ● シカ(イノシシ)対策が大変 ● 鹿・いのしし・いたち ● 獣害、シカ・イノシシ・アライグマ ● 電柵管理 ● 鹿いのしし等の害 ● 鹿が苗を食べる ● 電柵やネットでも獣害を防げない ● シカ、イノシシが農作物を食べてしまう(柵を上手く張りたい) ● 知らない土地の農地の電柵直せない
<p style="text-align: center;">機械化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 機械をレンタルできない ● 道が細い(機械がはいらぬ) ● 耕運機が入りにくい ● 耕作地の近くまで車が入らない ● 農業機械が入りづらい(入れない) ● 棚田は草刈が大変である ● 重機、エスカレータみたいなもの ● 重機が入るスペースがせまい。もう少し自動化できないか 	<p style="text-align: center;">農業関連設備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 水を畑に使いたい。ポンプ、井戸が畑に少ない ● 水源(川)が遠いので散水出来ない ● 排水(畑)が悪い ● 水源 ● 道具をレンタル or 共有できるようにしたい(お金がかかる)
<p style="text-align: center;">設備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● トイレや店が無い(いざという時に困りそう) ● 共通の休憩場所(気分が悪くなったらどうしているのか) ● 直売所よくわからぬ。コミセン ● トイレがレトロで使用しにくい 	<p style="text-align: center;">人手不足</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 作業人員が少ない ● 働き手の継続的な確保 ● 人手不足 ● ボランティアの人手不足 <p style="text-align: center;">高齢化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 農作物を作る方々の高齢化 ● 高齢化 ● 作業員が高レイでやめる人が多い

アクセス

- 車がないと来れない
- 車が必要
- 交通の便が悪い
- 交通手段(車以外)
- 高山に行く交通手段
- アクセスが悪いためイベント参加者が少ない。バスの本数を多くできないか
- 観光客の人たちが車以外に来にくい

PR

- 良さ(魅力)の発信
- 会の活動のPR方法
- 知られていない

連携

- 広域での連携が弱い
- まわりで活動する団体どうしの連絡
- 各活動団体の連携
- 地元住民と外部活動団体のつながり

地域の差別化

- 他の地域の棚田との差別化、特徴アピール点
- 棚田をどうしていきたいのか？観光化？棚田の維持
- 右近の方向性
- 棚田(景観)保全

資金

- 資金活動
- ボランティア活動が多いため、資金を作れない、つくりたい

施設

- 飲食店を増やす
- ご飯を食べるお店がない
- ギャンブルができない
- 川遊びができない
- コミュセンで夜さわげない

情報

- 耕作放棄地をかりたい場合の情報がない(耕作放棄地がたくさんあってびっくり)
- 居住の情報が欲しい
- 空き家の情報不足
- 農地を活用するために若い人をあつめたい(情報発信力をたかめたい)
- この土地でつくれる農作物のリストがほしい
- 部外者の関わり方が分からない。やってみたい！けどどうやって？
- 高山の情報を一括で知りたい、役所・右近の郷・ふるさとおこしなどバラバラ

その他

- 無耕作地帯
- ボランティア日が私の「休み」と合わない
- 天候と自分たちの日程があわない
- 棚田を使ったイベントはどこまで許される？
- 事業主が少ない
- 足腰が丈夫でないとできない
- 市街化調整区域

6. 発表

各グループで議論された内容について、各チームの方から発表をして頂きました。



◇下記、3名の方から発表して頂きました。

グループ①（左上写真）：山上さん

グループ②（右上写真）：御守さん

グループ③（左下写真）：鶴田さん

7. ワークショップで出た意見のとりまとめ

ワークショップで抽出された意見を下記の項目で整理しました。

高山地区の魅力

- ・自然環境
- ・生き物
- ・景観
- ・棚田
- ・農業への適性
- ・農作物が安全・おいしい
- ・農作業体験ができる
- ・静か
- ・周辺の歴史資源
- ・周辺の魅力施設
- ・周辺の設備
- ・人
- ・都心からのアクセス
- ・その他地域特性

困っていること

- ・自然現象 環境要因
- ・獣害
- ・農業関連設備
- ・機械化
- ・人手不足
- ・高齢化
- ・アクセス
- ・地域の差別化
- ・情報
- ・P R
- ・連絡調整
- ・設備
- ・施設
- ・資金
- ・その他

8. 「おわりに」(高山地区の棚田等の資源の保全・活用を考える会発起人：甲田)

ワークショップで様々な意見が出され、高山地区の新たな魅力や課題が見えた事をお話しさせていただきました。当ワークショップへのご参加・ご協力について感謝の意を述べさせて頂き、閉会のご挨拶とさせて頂きました。



9. 今後の流れ

